［2024 年３月３日策定］

2024 年～2028 年
カブトムシの森・アカマツ林整備５カ年計画

１．森の整備作業方針（カブトムシの森、アカマツ林共通）・・・・P1

２．カブトムシの森整備５カ年計画・・・・・・・・・・・・・・・・P3

３．アカマツ林整備５カ年計画・・・・・・・・・・・・・・・・・・P12

《森の整備作業方針（カブトムシの森、アカマツ林共通）》

当会のカブトムシの森やアカマツ林での森林保全活動は、草刈り、伐倒作業、材処理などの作業があるが、子供から高齢者まで様々な年代の人が参加している。刃物や刈払機、チェーンソーなども活動で使用するが安全に作業を実施するため、作業手順や安全講習会の実施など注意事項をまとめる。また、持続可能な会の運営のため、参加者の確保、森の管理者との連携、５ケ年計画の進捗管理などについてまとめることとする。

１．安全な作業実施について

（１）安全な作業

ⅰ.世話役による活動前の下見、実施計画の作成及び役員による確認
ⅱ.活動の７日前までに会員へ事前通知し参加者を募集
ⅲ.助役、道具係、撮影係、当日の班のリーダー等役割分担を決め、事前に依頼
ⅳ.作業前のスケジュール説明、作業班振り分け、安全確認、事故時の連絡先等確認
ⅴ.伐倒時の安全確保（監視役を一人置き、一般市民の立入規制を行う）
ⅵ.作業前後の体操・ストレッチ
ⅶ.作業時の休憩、給水の指示
ⅷ.救急箱の整備、道具の整備

（２）安全講習会

ⅰ.年１回の安全講習会の実施と欠席者への内容周知
ⅱ.福岡県森づくり安全講習会への参加促進（安全講習、手のこ、刈払機、チェーンソー講座等）
ⅲ.自然観察センター主催のチェーンソー講座への参加促進
ⅳ.ＯＪＴの実施（経験の少ない会員への指導）

２．参加者の確保と外部連携

会員数の減少および高齢化、活動参加者数の減少など会員不足が課題である。このため、様々な方法で会員を常時募集するとともに世話役や役員を養成し、持続可能な組織運営を行っていく必要がある。また、民間企業や外部団体との連携も検討していく。

ⅰ.会員への活動日の活動参加への呼びかけメール送付の徹底
ⅱ.ホームページ、フェイスブック、インスタ等での会の活動を広く周知
ⅲ.体験参加者の常時募集（ホームページ、フェイスブック、インスタ等）
ⅳ.ＮＰＯボランティアセンター、社会福祉協議会ボランティアセンター等での森会リーフレットの配布による広報
ⅴ.学校や民間企業（ＣＳＲ）の受け入れ（自然観察センター窓口）
ⅵ.外部団体との連携（チェーンソーによる材処理、薪づくり等）

３．森の管理者等との連携・協力

（１）市民の森の運営協議会への出席

カブトムシの森、アカマツ林の保全上の問題点や課題、整備の要望などの意見を提出

（２）市民による森の利用の促進

① カブトムシの森の利用促進

ⅰ.森の管理者とともにカブトムシの森案内図作成の検討・協力（カブトムシの森の概要、エリア、遊歩道、植物や樹木名、森会の紹介等）

ⅱ.ＱＲコードをつけた現地での植物説明等の設置の検討・協力

ⅲ.森の管理者による牧場利用者へのカブトムシの森での伐倒見学時間の周知

ⅳ.カブトムシの森現地に案内図やリーフレット置き場設置の検討・協力

② アカマツ林の利用促進

ⅰ.森の学習教材としての利用（遷移の過程）

ⅱ.周回路からアカマツへのアプローチ部、アカマツ林の入口部の広葉樹を除伐し、アカマツ群落が見えるようにすることによりアカマツ林の利用を促進

ⅲ.県内で貴重となったアカマツ群落を紹介するパンフレットの製作や看板設置の検討・協力

ⅳ.高校生の自然研修の場として継続利用

ⅴ.ＱＲコード等の利用による情報提供の検討・協力（アカマツの特徴・用途、マツクイムシ被害、危険生物等についての知識など）

（３）森の管理者（福岡市、指定管理者）への要望

① カブトムシの森

ⅰ.森の主動線となる遊歩道沿いの定期的な除草

ⅱ.A 地区入口及び案内看板の整備

ⅲ.歩きやすい遊歩道の整備（木橋、遊歩道、階段）

ⅳ.C 地区東屋の管理（利用してもらうために清掃等実施）

ⅴ.危険木の伐採（ナラ枯れ、枯れ枝、電線や施設に近接した伐採対象木）

ⅵ.伐倒木の搬出・薪への利用促進

ⅶ.自然観察センター、牧場、キャンプ場来場者へのカブトムシの森の紹介

ⅷ.パンフレット、案内図の作成と配布

ⅸ.伐倒作業の道路からの見学案内と解説等

ⅹ.カブトムシの森のイベントでの利用

② アカマツ林

ⅰ.森の主動線となる遊歩道沿いの定期的な除草

ⅱ.歩きやすい遊歩道の整備（遊歩道、階段、椅子）

ⅲ.森林管理者へのアカマツの枯損木の伐採・持ち出し処理の依頼

ⅳ.案内看板の整備

ⅴ.自然観察センター、牧場、キャンプ場来場者へのアカマツ林の紹介

４．計画的な事業の実施及び進捗管理

（１）５ケ年計画の実施状況の確認

納会や３月の運営会で１年間の振り返りを行い、５ケ年計画の進捗と成果を評価し、次年度の計画を立案する。

（２）納会

１年間の振り返りを行い、森の保全作業の問題点、課題を整理し、今後の活動方向や方針について検討する。

《カブトムシの森整備５ケ年計画》

１．計画の趣旨と基本理念

（１）計画の趣旨

「油山自然観察の森　森を育てる会」による福岡市油山にある「カブトムシの森」の保全整備を基本理念のもと実施するための５ケ年の計画を策定するもの

計画期間：２０２４年から２０２８年まで

（２）基本理念

「落葉広葉樹を主体とした里山を育成・維持し、カブトムシに象徴される昆虫や多様な動植物が生息・観察できるような森づくりを目指す」

＊里山とは、人里に近い場所にあって、主に薪や炭などの燃料生産と建築用材生産のために森林の伐採が持続的に行われ、森林内での下草刈りや落ち葉掻きが行われるなど人手が加わることにより成立した森林

２．これまでの経緯

（１）これまでのカブトムシの森の歴史

カブトムシの森の区域は、長い間、スギ、ヒノキの人工林でしたが、福岡市が１９９１年から３ケ年でスギ、ヒノキを伐採し、クヌギ、コナラの苗木を植え「野外でカブトムシを観察できる施設をつくる」という計画で整備が進められました。１９９５年６月に市民ボランティア育成事業として、森を育てる会の前身である「カブトムシの森を育てる会」が行政主導で立ち上げられ、カブトムシの森の保全活動を行うことになりました。カブトムシの飼育小屋や、カブトムシの放虫なども行われましたが、遺伝子攪乱などの問題もあり、カブトムシの持ち込みや飼育などは中止となり、１９９６年には会の名称も「森を育てる会」に変更し、森林の保全のため、クヌギの生長調査、植生調査、草刈りなどを行ってクヌギ・コナラの森を育ててきました。２０００年からはクヌギ・コナラの間伐もはじまりました。植林時の数は不明ですが、２００２年の調査では、クヌギ・コナラはカブトムシの森Ａ地区１７３本、Ｂ地区未調査、Ｃ地区６３本とあります。

（２）クヌギ・コナラ植林時の状況

カブトムシの森は、南側から、Ａ，Ｂ，Ｃ地区と区分けしています

Ａ地区は、スギ、ヒノキを伐採し、タブノキ、タラノキ、ヤブニッケイ、アカメガシワ、ユズリハ、ヒメシャラ、リョウブ等を残し、クヌギ・コナラが植林されました。

Ｂ地区は、調査資料がありませんが、広葉樹等を残し、クヌギ・コナラが植林されたと思われます。

Ｃ地区は、カブトムシの森の整備以前に野鳥の食餌植物となるビワ、クロガネモチ、モモ、ナンキンハゼ、リョウブ、モミジ、ツバキ、サザンカなど園芸種が植栽されていました。植林時は、タブノキ、ユズリハ、ネムノキ、リョウブ、ヒサカキ、ヒメシャラ、モモ、クロガネモチ、ケヤキ、タイサンボク、カエデ、サザンカ等を残しクヌギ・コナラの植林がされました。

３．森の整備方針

２０００年のクヌギ・コナラの除伐開始のころは、樹齢１０年、直径１０ｃｍ程度であり、一度に多数の伐採ができましたが、現在は、直径３０ｃｍ前後となっており、伐採に多くの時間と技術が必要となっています。これらのクヌギ・コナラについては、これ以上大きくならないうちに、早急に皆伐し萌芽更新を行う必要があります。

また、ＡＢＣ地区の現況の植生、地形、日照、歴史なども考え、地区毎の特性にあわせたゾーンの名称をつけ整備方針を定めます。

（１）こもれびゾーン（Ａ地区）

整備方針：落葉広葉樹を主体とし、中低木も混じる明るい森とする。

【主な作業】

ⅰ.多様な落葉広葉樹の育成。

ⅱ.大径のクヌギ・コナラの皆伐を他のゾーンに優先して行う。

ⅲ.萌芽更新したクヌギ・コナラのひこばえの選択的除去を行う。

ⅳ.湿地の草刈りを行い湿地の保全を行う。

ⅴ.外来植物の駆除（ヒメヒオウギズイセンの除去、球根撤去）。

（２）せせらぎゾーン（Ｂ地区）

整備方針：木立のある開けた空間を流れるせせらぎで水遊びが楽しめる森とする。

【主な作業】

ⅰ.大径のクヌギ・コナラの皆伐を行う。

ⅱ.沢遊びができるようにせせらぎ周辺の草刈りや伐木等環境整備。

ⅲ.休憩できる場所の検討。

（３）野の花ゾーン（Ｃ地区）

整備方針：ケヤキやクヌギ・コナラなど落葉樹の木立に囲まれ、季節の野花が広がる明るい草地のある森とする。

【主な作業】

ⅰ.大径のクヌギ・コナラの皆伐を行う。

ⅱ.繁茂しすぎないようにササ群落を管理する。

ⅲ.季節になると一面に広がるムラサキケマンやホウチャクソウを保全する。

ⅳ.コオニユリなど既存の草花を保全する。

ⅴ.他地区からサラシナショウマ、ノアザミ、ヒメアザミなどの移植・播種の検討。

ⅵ.入口のサインの検討（Ｃ地区階段上にあった手作りサインの再整備）。

ⅶ.植栽木（ユリノキ、エンジュなど）は伐採する。

４．大径のクヌギ・コナラの伐採計画

クヌギ・コナラは、１９９１年から９３年に植林されて、全てが樹齢３０年を超えており、直径３０ｃｍ、高さ２０ｍを超えるものもある。一般的に雑木林は、１５年から２０年程度の間隔で伐採され、主に切り株からの萌芽の生長により、再び森林が回復（更新）される。２０１８年までのカブトムシの森５ケ年計画では、Ａ地区は「クヌギの大径木を育てる」としていたが、勉強会などを通して、この方針を２０１９年から大径のクヌギ・

コナラは皆伐・萌芽更新する方針に変更した。

（１）クヌギ・コナラの伐採状況

２００２年、２００５年（Ａ地区とＣ地区）と２０２３年にクヌギ・コナラの現況調査を行っている。下表に示すように、２００２年調査ではＢ地区が未調査ではあるが、クヌギ・コナラが２３６本あり、２０２３年１２月現在では５１本となっており、これまでに森会でクヌギ・コナラを少なくとも２０５本程伐採（一部枯死もあり）してきている。

（2023 年 12 月現在）

地区名	２００２年	２００５年	２０２３年	伐採数
Ａ地区	１７３	１２４	１５	１５８
Ｂ地区	未調査	未調査	２０	-
Ｃ地区	６３	５１	１６	４７
計	２３６	１７５	５１	205

（２）クヌギ・コナラの伐採計画

今後のクヌギ・コナラの伐倒は、伐倒グループ原則３人１班で１日に２本程度の伐倒を行い、年間２０本を目標に伐採し、この５ケ年計画中に皆伐を終了させる。

伐採の優先順位は１．こもれびゾーン（Ａ地区）、２．野の花ゾーン（Ｃ地区）、３．せせらぎゾーン（Ｂ地区）とする。

また､伐採したクヌギ･コナラから萌芽した木も間伐等について考えていく必要がある。

（３）クヌギ・コナラ以外の大径木の伐採計画

クヌギ・コナラ以外にカブトムシの森に直径２０ｃｍ以上の木が５０本程度あるが、これについては、森の将来像に照らし、選択的に伐採していく。

５．森の整備にあたっての留意事項

（１）希少植物の保護及び幼木の育成

1）油山における希少植物、観察植物の保全

遊歩道沿いを中心に、クヌギ・コナラ以外の様々な観察木や、ハナイカダ、サラシナショウマ、ホウチャクソウなど希少植物に名札をつけ、保護していく。

2）保護・育成する希少植物及び幼木については、毎年、定例活動として活動日を設け、発生及び生育状況を皆で確認し、保護エリアの設置や名札の管理を行う。

3）多様な植物環境を構成するための木本・草本植物の選択的育成を図る。

4）油山の自然、植物群落や植物についての勉強会を実施する。

（２）草刈り

1）草刈りにおいては、遊歩道沿いについて重点的に行う。

2）希少植物を残し、選択的に草刈りを行う。

3）刈払機を使える人を増やし、効率的な草刈りを行う。

（３）クヌギ・コナラの伐採後の材の活用

里山においては、薪や炭などをつくるために伐採が行われてきたが、油山ではそのような作業が困難なため、伐倒後の材の活用について様々な検討を行い活用する。

1）シイタケの榾木としての活用

秋に伐採したクヌギを用いて榾木を作成し、自然観察センターに協力してシイタケ栽培を行う。

2）薪としての活用

伐採後のクヌギの玉切り、薪割などの作業を自然観察センターや他の団体等に依頼して薪として活用する。

3）昆虫の産卵床としての活用

伐採後に現地で、昆虫の産卵床として活用する。

4）材料としての提供

材料として提供し、自然観察センターのイベントでの利用や、他団体等によるイスづくり等で活用する。

（４）ヤード

伐採後の枝葉については、ヤードに運び、枝葉を切り刻み、内部に適度な水分を保ち、堆肥となるようにする。また、ヤードは必要に応じて、遊歩道からはできるだけ目立たない場所に作る。

（５）会の現状にあった作業方法の検討

会員の減少および高齢化、活動日の参加者数の減少に対応するため、機械の活用や他団体との連携を検討する。

ⅰ.刈払機、チェーンソーの有効活用

ⅱ.伐倒作業での部分的なチェーンソー利用検討

ⅲ.安全性を確保したうえでの効率的な伐倒手順の検討

ⅳ.定例作業外活動や外部団体依頼等での材処理の検討

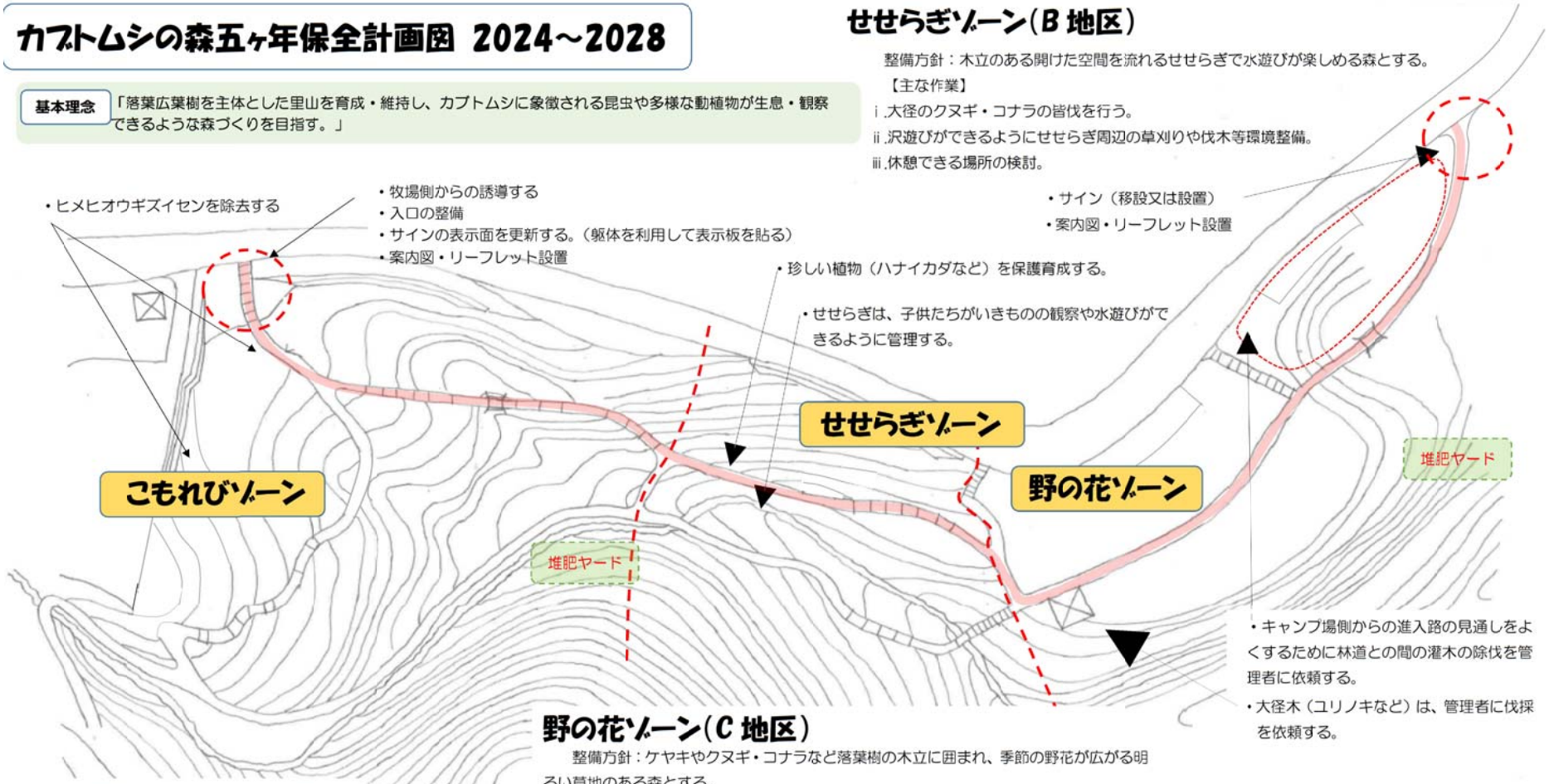
（６）環境保全（外部からの動植物の持ち込み）

油山の外部からの動植物の持ち込みは環境保全の観点から行わない。油山内であっても原則として、動植物の移動は行わず、植物の移植等を計画する場合は事前に自然観察センターと協議し、了承を得たうえで行う。

＊自然観察センターの考え方：①施設（牧場と市民の森を合わせた区域）を超えての動植物の移動をしない。②積極的な動植物の移動はしない。ただし、施設内の生物多様性向上に資するものや、保護の観点から個別に検討する場合がある。

カブトムシの森五ヶ年保全計画図 2024～2028

基本理念 「落葉広葉樹を主体とした里山を育成・維持し、カブトムシに象徴される昆虫や多様な動植物が生息・観察できるような森づくりを目指す。」



せせらぎゾーン（B 地区）

整備方針：木立のある開けた空間を流れるせせらぎで水遊びが楽しめる森とする。

【主な作業】

ⅰ.大径のクヌギ・コナラの皆伐を行う。

ⅱ.沢遊びができるようにせせらぎ周辺の草刈りや伐木等環境整備。

ⅲ.休憩できる場所の検討。

こもれびゾーン（A 地区）

整備方針：落葉広葉樹を主体とし、中低木も混じる明るい森とする。

【主な作業】

ⅰ.多様な落葉広葉樹の育成。

ⅱ.大径のクヌギ・コナラの皆伐を他のゾーンに優先して行う。

ⅲ.萌芽更新したクヌギ・コナラのひこばえの選択的除去を行う。

ⅳ.湿地の草刈りを行い湿地の保全を行う。

ⅴ.外来植物の駆除（ヒメヒオウギズイセンの除去、球根撤去）。

野の花ゾーン（C 地区）

整備方針：ケヤキやクヌギ・コナラなど落葉樹の木立に囲まれ、季節の野花が広がる明るい草地のある森とする。

【主な作業】

ⅰ.大径のクヌギ・コナラの皆伐を行う。

ⅱ.繁茂しすぎないようにササ群落を管理する。

ⅲ.季節になると一面に広がるムラサキケマンやホウチャクソウを保全する。

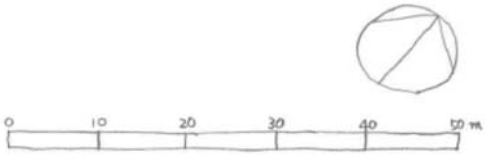
ⅳ.コオニユリなど既存の草花を保全する。

ⅴ.他地区からサラシナショウマ、ノアザミ、ヒメアザミなどの移植・播種の検討。

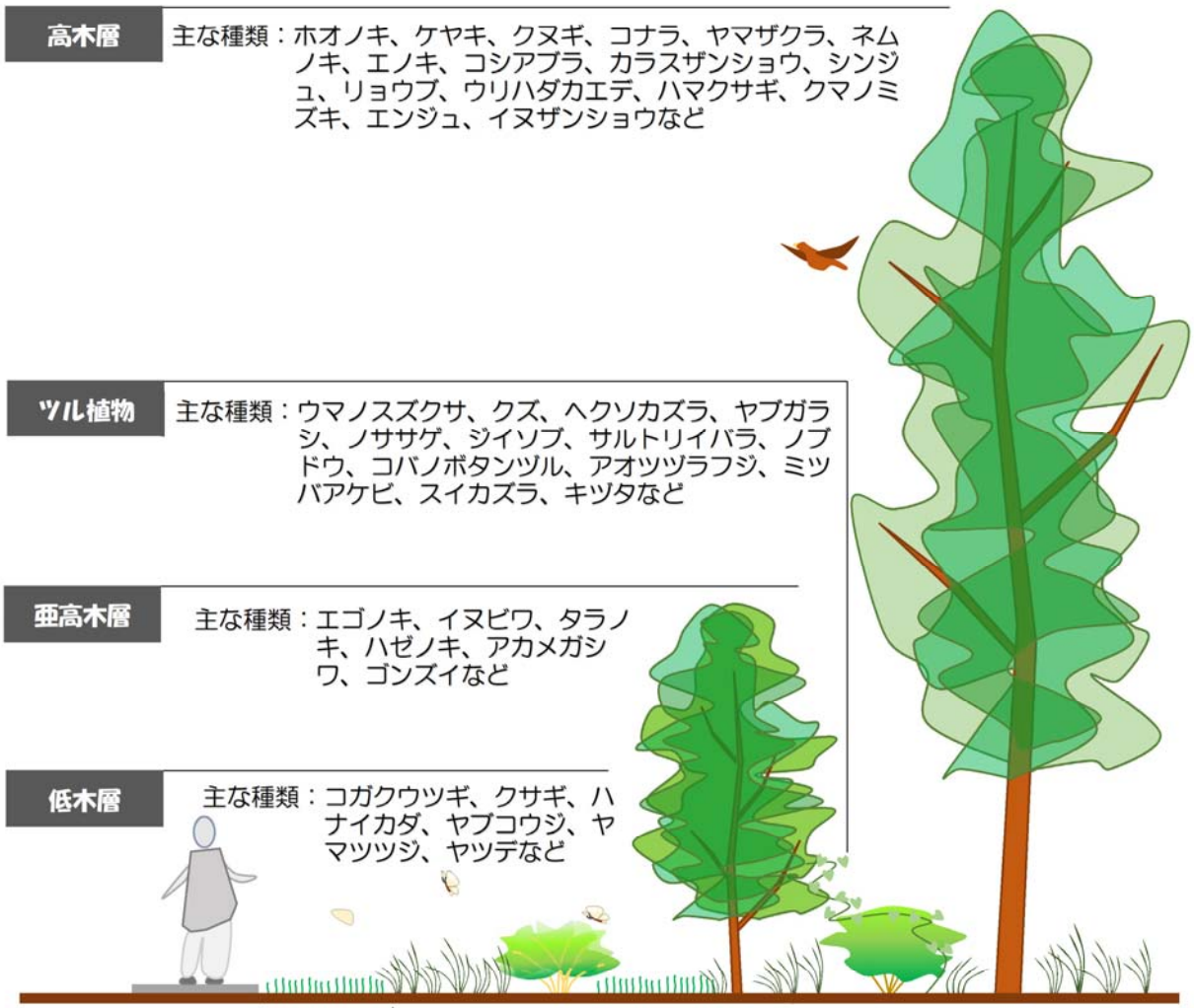
ⅵ.入口のサインの検討（C地区階段上にあった手作りサインの再整備）。

ⅶ.植栽木（ユリノキ、エンジュなど）は伐採する。

メイン遊歩道：利用の支障にならないように草刈り頻度（高）



カブトムシの森　植生イメージ図



高木層　主な種類：ホオノキ、ケヤキ、クヌギ、コナラ、ヤマザクラ、ネムノキ、エノキ、コシアブラ、カラスザンショウ、シンジュ、リョウブ、ウリハダカエデ、ハマクサギ、クマノミズキ、エンジュ、イヌザンショウなど

ツル植物　主な種類：ウマノスズクサ、クズ、ヘクソカズラ、ヤブガラシ、ノササゲ、ジイソブ、サルトリイバラ、ノブドウ、コバノボタンヅル、アオツヅラフジ、ミツバアケビ、スイカズラ、キヅタなど

亜高木層　主な種類：エゴノキ、イヌビワ、タラノキ、ハゼノキ、アカメガシワ、ゴンズイなど

低木層　主な種類：コガクウツギ、クサギ、ハナイカダ、ヤブコウジ、ヤマツツジ、ヤツデなど

高茎植物　主な種類：イタドリ、ヒヨドリバナ、ススキなど

低茎植物　主な種類：シハイスミレ、フキ、カキドオシ、ミゾイチゴツナギ、キクムグラ、ムラサキケマン、イノコヅチ、ダイコンソウ、ヤエムグラ、オランダミミナグサ、タネツケバナ、タチイヌノフグリ、ツボスミレ、オニタビラコ、シュウブンソウ、ミズヒキ、ナガバタチツボスミレ、ナガバモミジイチゴ、オカウコギ、イヌタデ、ヘビイチゴ、ベニシダ、ヒメジョオン、ウシハコベ、クサイチゴ、ミゾシダ、マムシグサ、ヤマハッカ、ヤブソテツ、トウバナ、キツネノマゴ、ツルニガクサ、キランソウ、フデリンドウなど

カブトムシの森　イメージスケッチ（その1）

せせらぎゾーンよりこもれびゾーンを望む

階段上よりせせらぎゾーンを望む

カブトムシの森　イメージスケッチ（その2）

《カブトムシの森 基本理念》

「落葉広葉樹を主体とした里山を育成・維持し、カブトムシに象徴される昆虫や多様な動植物が生息・観察できるような森づくりを目指す。」

《 カブトムシの森 5 カ 年 計 画 作 業 工 程 》

地区名	作業内容	2024年	2025年	2026年	2027年	2028年
カブトムシの森共通	草刈	――	――	――	――	――
	植生調査	――	――	――	――	――
	昆虫調査	――	――	――	――	――
	シイタケ栽培	――	――	――	――	――
こもれびゾーン（A地区）	クヌギ皆伐・更新	━━				
	広葉樹の更新	――	――	――	――	――
	保存植物名札の管理	――	――	――	――	――
	案内図、リーフレット	━━				
	保護育成する樹木の選別	━━	┅┅	┅┅	┅┅	┅┅
	ヒメヒオウギズイセンの撲滅	――	――	――	――	――
せせらぎゾーン（B地区）	クヌギ皆伐・更新				━━	━━
	広葉樹の更新	――	――	――	――	――
	保存植物名札の管理	――	――	――	――	――
	保護育成する樹木の選別	━━	┅┅	┅┅	┅┅	┅┅
	水辺整備	━━	――	――	――	――
野の花ゾーン（C地区）	クヌギ皆伐・更新		━━	━━		
	広葉樹の更新	――	――	――	――	――
	保存植物名札の管理	――	――	――	――	――
	案内図、リーフレット	━━				
	保護育成する樹木の選別	━━	┅┅	┅┅	┅┅	┅┅
	植物の移植・播種の検討	━━	┅┅	┅┅	┅┅	┅┅

凡例　━━ :重点的に実施　―― :継続的に実施　┅┅ :適宜実施　····· :必要に応じ実施

《アカマツ林整備５カ年計画》

テーマ　「い　つ　も　元　気　な　ア　カ　マ　ツ　林」

～幼木から大径木までのさまざまな成長段階が見られる森づくり～

夢は大きくマツタケの生える元気なアカマツ林

１．油山における保全整備の背景と経緯

アカマツはかつて人の暮らしに密接な樹木として燃料のほか、建材、坑木、枕木、船材など様々な用途に利用され、この為常に人の手が入る里山の代表的な樹木として森を形成していた。しかし時代の変遷とともに需要が激減して手入れがされなくなると、植生遷移や松枯れよって多くが衰退した。油山に残るアカマツ林も福岡県のレッドデータブックの希少植物に指定され対策を講じることを求められているが、現状は常緑広葉樹が繁茂する照葉樹林に変わりつつある。森を育てる会では 1997 年にこの希少なアカマツを保全し、群落を再生すべく整備活動を始め現在も継続的な整備を行なっている。

※一部では、福岡県による松枯れ対策として、薬剤の樹幹注入や枯木の伐採等が行われている。

２．アカマツ林全体に関する整備方針

① アカマツ幼木の中から大きく育てていく木を選抜し、適切な間伐を行なって生長を促進する。

② 広葉樹の除伐が進み日当たり良好となったエリアでは幼木や実生の生育が多く見られ、これからの発芽も期待できる。同時にその生育を阻害する草や広葉樹の萌芽枝の繁殖も著しいため、継続的な草刈り・萌芽枝刈りを主な作業として行うこととする。

③ 草刈り、萌芽枝刈りを行うために必要な作業道は既存ルートを適宜補修して維持するとともに、未整備のエリアもルートを検討して整備する。また除伐した材や枝葉を集積する既存ヤードの維持管理を行う。

④ アカマツ以外の樹木についてはアカマツ群落の形成を目指すため基本的に除伐し、アカマツと相性が良いとされるソヨゴやヤマボウシ、景観を楽しめたりや昆虫等を誘引するヤマザクラ、タムシバ、エゴノキ、ザイフリボクなどの花木は残すという方針を今後も維持する。但し大きさや生育場所等、アカマツとの競合状況に応じては除伐も検討する。

⑤ 施設整備として遊歩道沿いに設置されているベンチを利用し易くするため周辺の松枝剪定や草刈りを行う。またアカマツ林内に３か所設置されている案内板は施設管理者と連携し活用を検討する。

⑥ 希少な林床植物を保護する。

⑦ 対外活動としては、施設管理者と連携して、高校生の自然研修や一般企業のボランティア活動において、アカマツ林での地掻きや草刈り作業を協力して行うとともに、里山保全の一環としてアカマツ林整備を行なっていることのＰＲの機会とする。

⑧ アカマツの大径木に関する具体的対応は国・県で行われるので、森会として懸念される状況を把握した場合は、施設管理者への情報提供などによりアカマツ群落の適正な形成を図る。

⑨ 遊歩道はアカマツ林の主動線となるため一般市民の利用し易さも考慮して草、萌芽枝刈りを施設管理者に協力して行う。

３．地区ごとの整備計画

（１）キキョウの丘（A 地区）の整備

① アカマツ林入口に位置する炭焼き窯跡裏の広葉樹（スダジイ、クリ、クロキなど）を除伐して、アカマツの大径木が見えるアカマツ林らしい明るい入口にする。

② 遊歩道沿い及びその山側斜面にアカマツ幼木が多く見られる。生長が顕著な箇所は大きく育てるアカマツを選抜して他は間伐する。また草刈り、地掻きを継続して行う。

【整備に当たっての留意点】

ⅰ.炭焼き窯跡の階段登り口に設置されている案内板は、施設管理者と連携して活用を検討する。

ⅱ.希少な林床植物は保護する。

ⅲ.ガイダンス広場へ下る階段脇のシャシャンボ、ネジキ、ヤマボウシは残す。

（２）フデリンドウ広場（B 地区）の整備

ガイダンス広場から先のエリアの草刈りを継続的に行う。ソヨゴ谷（C 地区）との境の作業道沿いに幼木が育ってきているので、周辺の草刈りを行なって生長を助ける。

【整備に当たっての留意点】

ⅰ.希少な林床植物は保護する。

ⅱ.ヤマザクラ、ヤマボウシは景観上残す。

（３）ソヨゴ谷（C 地区）の整備

① 広葉樹の除伐がほぼ完了し、非常に日当たりの良いエリアとなっている。主に遊歩道沿い緩斜面と斜面中腹の作業道沿い、遊歩道と作業道間の斜面にアカマツの実生、幼木が増えている。一方で草、萌芽枝の繁殖も旺盛となっているため、継続的な刈り取り作業を行って、幼木や実生の生育を助ける。刈り取り作業に必要な作業道は適宜補修して維持する。

② 作業道から下部にはアカマツ幼木はまだ見られないが、同様に草、萌芽枝刈りを行なう。また、斜面最下部の除伐材等の集積ヤードを維持管理する。

③ アカマツと相性が良いソヨゴ、景観上からヤマザクラは保存しているが大きくなりすぎているので萌芽更新する。

【整備に当たっての留意点】

ⅰ.希少な林床植物は保護する。

ⅱ.遊歩道沿いのヤマザクラは景観上残す。

（４）タムシバ谷（D 地区）の整備

① 広葉樹の除伐がほぼ完了し、南側斜面は非常に日当たりの良いエリアとなっており、遊歩道沿いやソヨゴ谷（C 地区）から続く作業道が遊歩道に接続する近辺や保存樹木

のタムシバ周辺にアカマツ幼木が育っている。ソヨゴ谷同様、草、萌芽枝の繁殖も旺盛となっているため、継続的な刈り取り作業を行って、幼木や実生の生長を助ける。併せて作業道を適宜補修し維持する。

② 遊歩道沿い民地側尾根筋のアカマツは成木に生長しているものがある。大きく育てる木を選抜して他は適切な間伐を行う。

【整備に当たっての留意点】

ⅰ.タムシバは残す。

（５） エゴノキ谷（E 地区）の整備

① 遊歩道南側が崖地になっているエリアだが、広葉樹の除伐もほぼ完了し、遊歩道直下にアカマツの幼木が多く生育している。日当たりが良くなり、草や広葉樹の萌芽枝で藪のような状態になるため、継続的な刈り取り作業を行うこととする。

② アカマツ幼木が密集している箇所では間伐を行い、残す木の生育を促す。

③ 草刈りのための作業道を整備する。

【整備に当たっての留意点】

ⅰ.希少な林床植物は保護する。

ⅱ.遊歩道沿いのエゴノキ、ゴンズイや南側斜面のヤマザクラは残す。

（６）コシアブラの尾根（F 地区）の整備

① 遊歩道沿いにアカマツが生育しており成木になったものもある。周辺の草刈りを行なって大きく育てる。

② 本エリア一番奥の遊歩道の階段脇に根元から 4 本に分かれて高木になったスダジイの除伐を行う。ホウノキなどの小径木、灌木の除伐を行う。

③ シダ刈り、広葉樹の萌芽枝刈りを継続して行う。

④ アカマツ幼木が密集している箇所では間伐を行い、残す木の生育を促す。

⑤ 草刈りのための作業道を整備する。

⑥ 旧ヤードは撤去する。

⑦ 遊歩道に設置されているベンチを利用し易くするため、覆いかかっている松枝の剪定や周囲の草刈りを行う。

【整備に当たっての留意点】

ⅰ.掲示物が剥がれた案内板は施設管理者と連携して活用を検討する。

ⅱ.小径のコシアブラ、ヤマザクラは残す。

アカマツ林五ヶ年保全計画図　2024～2028

基本理念

い つ も 元 気 な ア カ マ ツ 林」
～幼木から大径木までのさまざまな成長段階が見られる森づくり～
夢は大きくマツタケの生える元気なアカマツ林

キキョウの丘（A 地区）

全区域で最も実生、幼木、大径木が生育しているモデル地区
① アカマツ林らしい明るい入口にする為、常緑広葉樹の除伐
② 遊歩道沿い及びその山側斜面のアカマツ幼木の間伐
③ 草刈り、地掻きの継続実施
【整備に当たっての留意点】
ⅰ.案内板の活用を施設管理者と連携して検討
ⅱ.希少な林床植物の保護
ⅲ.ガイダンス広場へ下る階段脇のシャシャンボ、ネジキ、ヤマボウシの保存

ソヨゴ谷（C 地区）

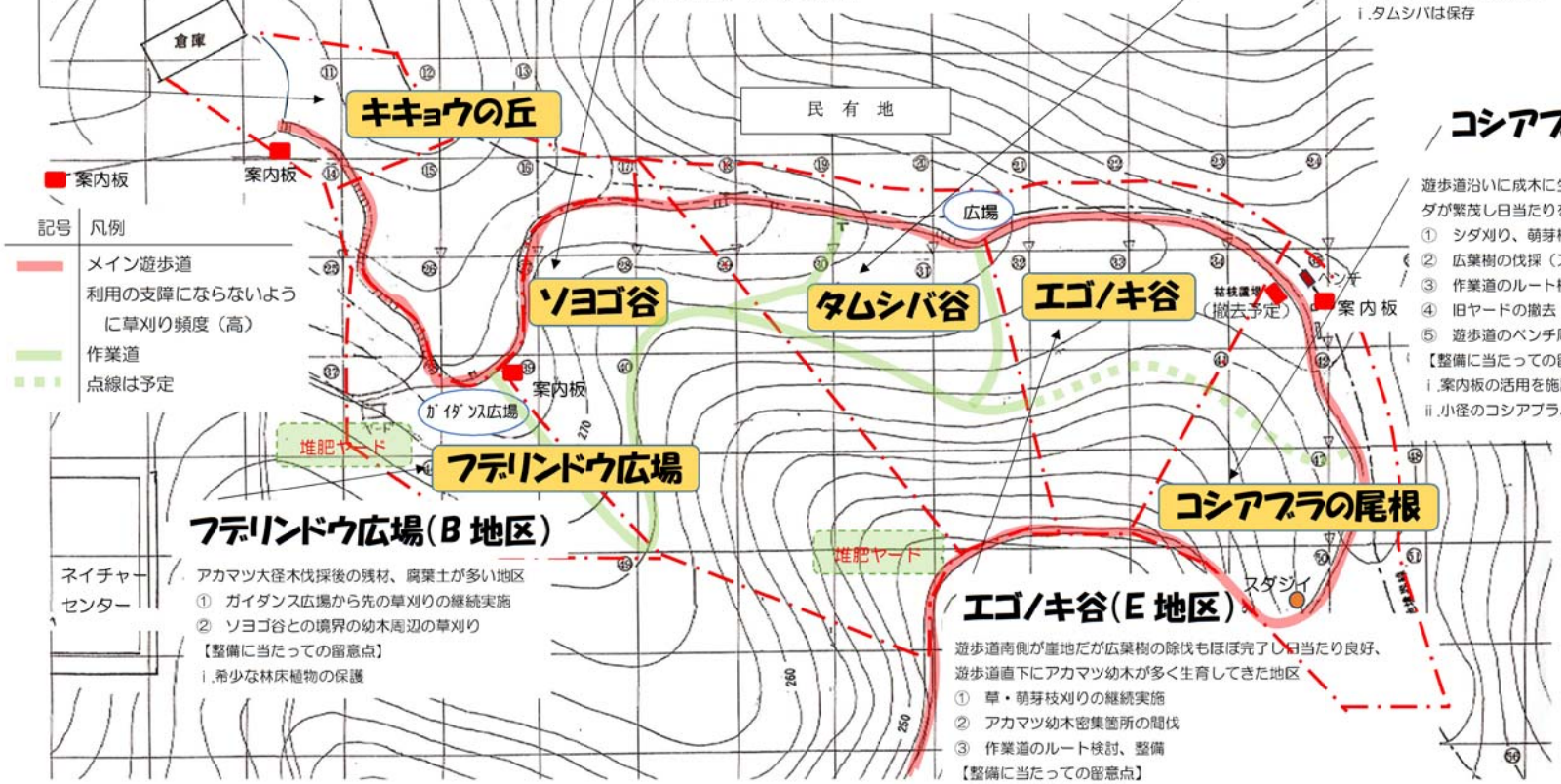
広葉樹の除伐で日当たり良好な傾斜地となりアカマツ実生・幼木の生育が見られる一方、草・萌芽枝の繁殖も顕著な地区
① 遊歩道～作業道間の草・萌芽枝刈りの継続実施及び作業道の補修・維持
② 作業道から下部の草・萌芽枝刈り及び斜面最下部の除伐材等の集積ヤードを維持管理
③ ソヨゴ、ヤマザクラの萌芽更新検討
【整備に当たっての留意点】
ⅰ.希少な林床植物の保護
ⅱ.ソヨゴ、ヤマザクラは保存

タムシバ谷（D 地区）

広葉樹の除伐で日当たり良好となり、遊歩道、作業道沿い及びタムシバ周辺にアカマツ幼木が育っている一方、草・萌芽枝の繁殖も顕著な地区
① 草・萌芽枝刈りの継続実施及び作業道の補修・維持
② 民有地側の尾根筋のアカマツの適切な間伐
【整備に当たっての留意点】
ⅰ.タムシバは保存

コシアブラの尾根（F 地区）

遊歩道沿いに成木に生育したアカマツがある一方、斜面はシダが繁茂し日当たりを遮る常緑広葉樹もある地区
① シダ刈り、萌芽枝刈りの実施
② 広葉樹の伐採（スダジイ、ホオノキ、灌木等）
③ 作業道のルート検討、整備
④ 旧ヤードの撤去
⑤ 遊歩道のベンチ周辺の枝切、草刈り
【整備に当たっての留意点】
ⅰ.案内板の活用を施設管理者と連携して検討
ⅱ.小径のコシアブラ、ヤマザクラは保存



記号	凡例
	メイン遊歩道 利用の支障にならないように草刈り頻度（高）
	作業道
	点線は予定

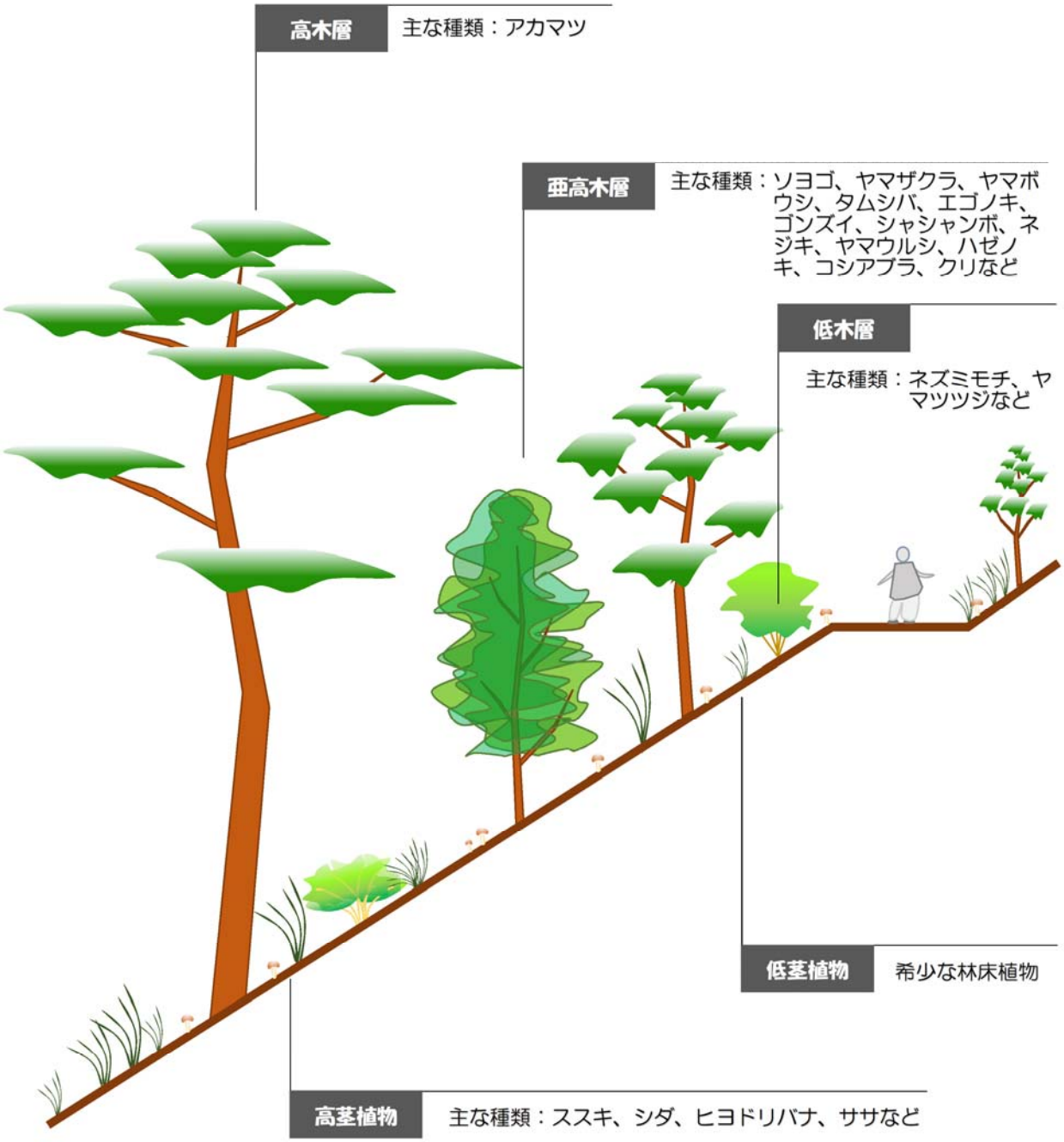
フデリンドウ広場（B 地区）

アカマツ大径木伐採後の残材、腐葉土が多い地区
① ガイダンス広場から先の草刈りの継続実施
② ソヨゴ谷との境界の幼木周辺の草刈り
【整備に当たっての留意点】
ⅰ.希少な林床植物の保護

エゴノキ谷（E 地区）

遊歩道南側が崖地だが広葉樹の除伐もほぼ完了し日当たり良好、遊歩道直下にアカマツ幼木が多く生育してきた地区
① 草・萌芽枝刈りの継続実施
② アカマツ幼木密集箇所の間伐
③ 作業道のルート検討、整備
【整備に当たっての留意点】
ⅰ.希少な林床植物の保護
ⅱ.遊歩道沿いのエゴノキ、ゴンズイや南側斜面のヤマザクラは保存

アカマツ林　植生イメージ図



アカマツ林　イメージスケッチ（その1）

アカマツ林　イメージスケッチ(その2)

《アカマツ林整備計画テーマ》

「いつも元気なアカマツ林」

～幼木から大径木までのさまざまな成長段階が見られる森づくり～

《アカマツ林５カ年計画作業工程（案）》

地区名		作業内容	2024年	2025年	2026年	2027年	2028年
キキョウの丘（A地区）	（尾根部）	入口整備(広葉樹除伐、案内板)	━━━	━━━			
		草刈り・萌芽枝刈り、地掻き	───	───	───	───	───
	（斜面部）	草刈り・萌芽枝刈り、地掻き	───	───	───	───	───
		アカマツ幼木間伐	-----	-----	-----	-----	-----
フデリンドウ広場（B地区）		草刈り・萌芽枝刈り	───	───	───	───	───
		ヤード管理	-----	-----	-----	-----	-----
ソヨゴ谷（C地区）		シダ刈り・萌芽枝刈り	───	───	───	───	───
		作業道補修、ヤード管理	-----	-----	-----	-----	-----
		アカマツ幼木間伐			·····	·····	·····
		広葉樹除伐	-----	-----	·····	·····	·····
タムシバ谷（D地区）	（尾根部）	草刈り・萌芽枝刈り、地掻き	───	───	───	───	───
		アカマツ幼木間伐	-----	-----			
	（斜面部）	シダ刈り・萌芽枝刈り	━━━	━━━	───	───	───
		作業道補修、ヤード管理	-----	-----	-----	-----	-----
エゴノキ谷（E地区）	（尾根部）	草刈り・萌芽枝刈り	───	───	───	───	───
		アカマツ幼木間伐	-----	-----			
	（斜面部）	草刈り・萌芽枝刈り	───	───	───	───	───
		作業道設置・補修、ヤード撤去	━━━	━━━	───	───	───
		アカマツ幼木間伐	-----	-----			
コシアブラの尾根（F地区）	（尾根部）	シダ刈り・萌芽枝刈り	───	───	───	───	───
		アカマツ幼木間伐	-----	-----			
	（斜面部）	シダ刈り・萌芽枝刈り	───	───	───	───	───
		作業道設置・補修	━━━	━━━	───	───	───
		広葉樹除伐（スダジイ）	━━━				

凡例　━━━ :重点的に実施　─── :継続的に実施　----- :適宜実施　····· :必要に応じ実施

《アカマツ林整備計画テーマ》

「いつも元気なアカマツ林」

～実生、幼木から大径木までのさまざまな生長段階が見られる森づくり～

A地区：キキョウの丘
B地区：フデリンドウ広場
C地区：ソヨゴ谷
D地区：タムシバ谷
E地区：エゴノキ谷
F地区：コシアブラの尾根

《2024時点のアカマツ林の概況》

A地区： 全地区の中で最も実生、幼木、大径木ともに生育しておりアカマツ林らしい景観となっている。林入口には常緑広葉樹が残っている。

B地区： 観察木とする落葉広葉樹を残し常緑樹の除伐は終了しているが、腐葉土が厚く、また残材が多く残っている。アカマツ大径木が見られるが、枯損木もある。作業道沿いに幼木が育っている。

C地区： 常緑樹の除伐はほぼ終了。日当たり良好でアカマツの実生・幼木が増えている。一方で草、萌芽枝の繁茂が著しくなっている。

D地区： 尾根地にアカマツ幼木が密生。常緑樹の除伐はほぼ終了。日当たり良好となった傾斜地にアカマツの実生・幼木が増えている。一方で草や萌芽枝の繁茂が著しくなっている。

E地区： 常緑樹の除伐はほぼ終了。日当たり良好となった傾斜地にアカマツの実生・幼木が増えている。一方で草や萌芽枝も増

⇒

《2024～2028 五カ年の作業概要・目的》

全体： アカマツの生育促進の為に継続的な草、萌芽枝刈り、地掻き及び広葉樹の除伐を行う。観察木とする落葉広葉樹を保存し、希少な林床植物を保護する。

A地区： 林入口の広葉樹の除伐によるアカマツ林らしい景観形成
草刈り、地掻き。幼木の適切な間伐による生育促進

B地区： 草刈りによる実生、幼木の生育促進

C地区： 草・萌芽枝刈りによる実生、幼木の生育促進
作業道の補修、維持

D地区： 尾根地の幼木の間伐、傾斜地の草・萌芽枝刈りによる実生
幼木の生育促進。作業道の補修、維持

E地区： 尾根地、傾斜地の草、萌芽枝刈りによる実生、幼木の生育

⇒

《2024～2028 五カ年の目標》

全体： 実生から大径木までの様々な生長の段階を見ることが出来る
アカマツ群落をつくる。低層、亜高層の花木等の広葉樹は保
存し、希少な林床植物も保護して楽しみながら観察できるアカマツ林にする。遊歩道はいつも散策者が歩きやすい状態に保つ。
＊マツタケが生える"夢"に向かって整備を進める！

A地区： モデル地区として維持、育成する。

B地区： 実生の発芽、幼木の生育を促進する。

C地区： 増えてきた幼木を大きく育てる。

D地区： 尾根地の幼木や成木に育ってきたもの、傾斜地の幼木を大

⬇

《理念達成のための中・長期的な整備ロードマップ》

《第一ステージ》
常緑広葉樹の除伐(林床に日が当たる明るい森づくり)

⇒

《第二ステージ》
シダ等草刈り、萌芽枝刈りによるアカマツの実生の発芽・幼木の生育促進、下層の希

⇒

《第三ステージ》
地掻きやシダ刈り、広葉樹の萌芽枝除伐等によるアカマツ幼木の生育促進と、アカマツ幼

⇒

《第四ステージ》
アカマツ幼木の間伐及び地掻き等による低木落葉樹や下層の草花の保護・育成

（注：赤枠は5か年計画重点目標案）

⬇

《地区別の現ステージと今後の整備イメージ》

2023年9月13日

A地区(モデル地区)

B地区

C地区

D・E地区(山側)

D・E地区(谷側)

F地区(山側)

F地区(谷側)